

栃の木からの手紙

2023年 神無月 10月号



8日： 寒露

15日： 新月 旧 9月 1日

23日： 霜降

29日： 満月 旧 9月 15日

1993年10月1日33歳の時、10年勤めた会社を辞して自転車を担いで女満別空港に降り立った。あれから30年。北海道の地で今年も無事に豊穰の秋を迎え芋の選別箱詰作業、ビーツの収穫選別と忙しい日々を送っている。

そう言えば、1993年は冷夏で全国的に米が不作、タイ米を輸入した年。今年も記録的な猛暑。

8月中に収穫が終わった各種食用芋。10月7日、選別箱詰作業を終了することが出来ました。出来量は、表の様に昨年より減量になりました。記録的な暑さで疫病の発生が早かった様に思う。

有機JAS 赤ビーツの播種日 と 塔立ち

2022年

播種日	4月1日	4月13日	5月16日	6月4日
播種量	40枚	40枚	40枚	40枚
塔立ち数				
7月11日	41本	4本	2本	0本
7月22日	105本	25本	1本	0本
8月3日	141本	51本	8本	0本
収穫コンテナ数	88個	118個	74個	40個

2023年

播種日	4月13日	5月15日
播種量	64枚	72枚
塔立ち数		
7月11日	27本	5本

9月末には、赤ビーツの収穫も始めました。畑の乾き具合を見て、芋の選別をしたり、ビーツの収穫をしたりと目まぐるしい4日間。今年も、ビーツの種蒔きを4月中旬と5月中旬の2回にしたため、塔立ちが大分少なくなり、大きさも手頃なものが多くなった気がします。2反程の面積ですが収穫量は4トン半程あります。これから選別して大きさを分けて行きます。(播種量は128穴育苗トレーの枚数です。)

2023年 自然農法・有機JAS 芋生産量

作成：2023年 10月7日

	北あかり	とうや	さやあかね	ノーザン ルビー	シャドー クィーン
作付面積	24a	48a	59a	18a	18a
播種日	5月8日	5月7日	5月8日	5月8日	5月7日
茎葉処理	8月17日	8月17日	8月24日	8月17日	8月17日
収穫日	8月23日	8月22日	8月27日	8月24日	8月24日
収穫粗原量	2200kg	4600kg	7600kg	2400kg	1300kg

自然農法・有機JAS 出荷量 推移

オホツ高橋農場

反当りの出荷量(kg)

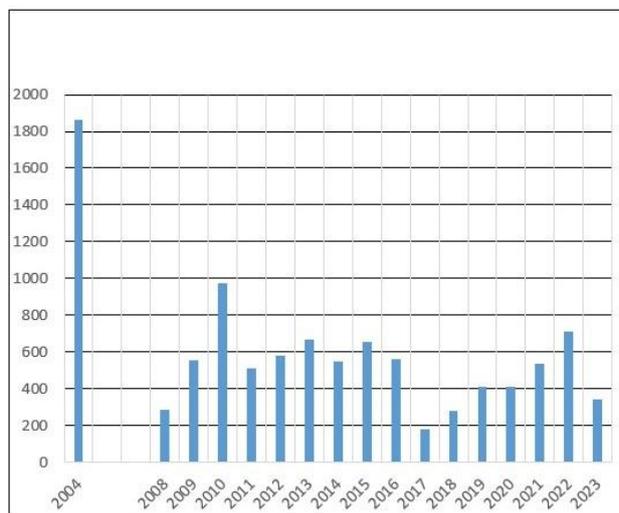
作成:2023年10月12日

作物名	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
とうや	出荷量kg	340	980	924	1790	2016	230	1023	663	1873	2210	3282	2180	2040
	反収kg	425	653	525	471	458	59	176	221	506	613	698	463	425
	面積a	8	15	18	38	44	39	58	30	37	36	47	47	48
きたあかり	出荷量kg	1280	990	1913	2640	2086	2175	547	1368	1278	1490	2255	1700	820
	反収kg	512	582	669	550	652	558	182	279	412	413	537	708	342
	面積a	25	17	29	48	32	39	30	49	31	36	42	24	24
さやあかね	出荷量kg	6360	2757	1648	1780	3330	2305	975	4110	2871	4800	1874	2900	3210
	反収kg	1010	501	832	774	640	623	222	874	598	979	399	828	544
	面積a	63	55	20	23	52	37	44	47	48	49	47	35	59
ノーザン ルビー	出荷量kg	0	110	534	987	745	485	456	1095	2098	1320	1123	2130	940
	反収kg	0	220	40	581	414	269	228	365	806	628	624	710	522
	面積a	1	5	13	17	18	18	20	30	26	21	18	30	18
シャドー クィーン	出荷量kg	0	0	188	378	375	315	30	271	828	440	202	950	360
	反収kg	0	0	137	210	188	175	25	194	360	275	112	395	200
	面積a	1	3	14	18	20	18	12	14	23	23	18	24	18
黒大豆	出荷量kg			0	74	150	91	0	90	355	270	---	---	---
	反収kg			0	124	115	57	0	41	169	117	---	---	---
	面積a			4	6	13	16	24	22	21	23	---	---	---
ピーツ	出荷量kg			試験栽培	試験栽培					80	516	534	999.4	
	反収kg									400	1040	1068	2947	
	面積a									2	4	5	22	24

自然農法・有機JAS きたあかり芋 反出荷量推移

作成:2023年 10月 12日

出荷	年	反出荷量kg
大 コ ン 一 括	2004	1860
	2008	285
	2009	555
	2010	974
個 選 箱 詰	2011	512
	2012	582
	2013	669
	2014	550
	2015	652
	2016	558
	2017	182
	2018	279
	2019	412
	2020	413
2021	537	
2022	708	
2023	342	



有機の芋の反当りの出荷量を過去と比べて見ると5種類の芋全てが減収しました。その原因を猛暑や疫病としていますが、越冬エン麦の栽培により窒素飢餓が発生したとも考えています。未分解の有機質を畑に入れる場合には微生物が活動するための十分な養分を入れてあげないと畑の養分を微生物が使ってしまい結果的に畑の養分が減り、今年の様な減収が起こったとも考えられます。注意しないとイケない。

昨年、有機圃場で行った越冬エン麦の栽培を今年是一般圃場に拡大しようと思ひ予定していた場所は、秋播き小麦の収穫後の圃場で住宅の前になりました。



普通は、小麦を収穫したら直ぐに緑肥を播いて生育した緑肥を9月末頃に畑にすき込んで土が露出した状態で冬を迎えます。

越冬エン麦の場合は、小麦畑の様に畑が青々した状態で冬を迎える様になります。雪の下になったエン麦は雪解けの頃にはすっかり枯れています。この状況が土づくりに良い様に感じられるので実践拡大しています。

今年、秋播き小麦収穫後、麦稈ロールを運び出して小麦の残った殻を粉碎して春から調整している牛糞堆肥と醗酵鶏糞を散布。ソイルクランブラで畑にすき込んでいます。一部、この秋に小麦の連作になる部分には、マメ科の緑肥豆助を播種しています。左の写真、豆助を播いたのは写真の右側の緑部分。左側は何も播いていないのです。この緑は何だと思ひます？従来の様に小麦の収穫後直ぐに緑肥を播いていると気づきにくいのですがこの緑は、収穫機から落ちた小麦。特に細麦。これが生育して緑になっているのです。秋播き小麦であるということは、この緑は来年夏まで生育し、来年春の作物の栽培には邪魔になります。



野良小麦の生育を阻止する為に8月9月の2ヶ月で9回作業機を入れています。それも殆ど夜。9月24日25日に緑肥エン麦を播種するための整地作業を夜行い、26日夕方からライムソーアでエン麦の播種作業を行いました。翌日、ロータリー掛け専門の出面さんをお願いして播種したエン麦を畑にすき込んで貰いました。

住宅前の小麦跡や有機圃場の柔らかそうな緑に心癒されている秋。



一般小麦跡のエン麦（左）と秋播小麦（右）



有機 JAS 圃場のエン麦